

『みなとオアシスあきたにぎわいプラン』ニュース

このニューズペーパーは、秋田市が進めている「秋田市ポートタワー（セリオン）およびその周辺施設の利活用計画」の検討状況について、地域の皆様にお知らせするものです。

▼ みなとまちづくり講演会

「港とまちを結ぶまちづくりの取り組み～小名浜港アクアマリンパークの取り組み～」

講師：小名浜まちづくり市民会議 事務局長 鈴木泰弘氏

第5回 みなとオアシスあきたにぎわいプラン策定委員会に先立って、小名浜まちづくり市民会議事務局長鈴木泰弘氏をお迎えし、みなとまちづくり講演会「港とまちを結ぶまちづくりの取り組み～小名浜港アクアマリンパークの取り組み～」が開催されました。



講演する鈴木事務局長

福島県いわき市の海の玄関口である重要港湾小名浜港は、秋田港と同じく「みなとオアシス」の認定を受けており、アクアマリンパークを中心としたにぎわいづくりに取り組んでいます。

また、市民参加型タウンマネジメント組織である小名浜まちづくり市民会議が設立され、「港とまちが一体となったまちづくり」に取り組んでいます。

講師の鈴木泰弘氏は、小名浜まちづくり市民会議の事務局長として、まちづくりの frontline で活躍されている方です。

小名浜まちづくり市民会議では、「行政とのパートナーシップ」「市民参加型で活動すること」を大きな方針として掲げており、「まちづくりの裾野を広げ、市民参加のまちづくりのシステムをつくること」「アクアマリンパークをにぎわい空間としてもり立てていくこと」「衰退が激しい中心市街を再生していくこと」さらに、「小名浜にある歴史文化を活用すること」を大きな柱に事業展開を行っているとのこと。

また、具体的な行動として、港に隣接する倉庫を行政が買収し、市民団体を母体とする株式会社が運営する「小名浜美食ホテル」の取り組みなどを紹介していただきました。

最後に、「再生の手法として、新しい生業（なりわい）というものを作っていく必要があると思っています。公共の投資というのは土俵づくりであり、生業（なりわい）をもとに港を再生していくのは民間の仕事だと思います。」との言葉で講演は終わり、市民参加、さらには生業（なりわい）に如何につながるかといった提言をいただきました。

鈴木事務局長の講演のあと、参加者からは、地元が一体化していくための取り組み手法など、活発な質疑が行われました。



講演参加者からの質疑の様子